令和３年度　３年「家庭総合」シラバス

１　科目・単位・履修学年・区分

教科	科目	単位	履修学年	区分
家庭科	家庭総合	１単位	３学年	必修（文型、文理型、理系）

２　使用教科書・副教材

・教科書：「家庭総合　ともに生きる・未来をつくる」　（第一学習社）
・副教材：「最新　生活ハンドブック 2020　資料集＆成分表」　（第一学習社）

３　科目「家庭総合」の目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的･総合的に身につけさせる。また、生活の中から問題を見出し､生活課題を主体的に解決するとともに､家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

４　授業形態・方法

通常の講義形式と、グループ単位での実験・実習、疑似体験、シミュレーション学習などを通して体験的に学習を深めます。座学、実習内容によって教室の移動がある場合もあります。いずれの場合も教科書及び資料集を用います。

５　成績評価の方法

成績評価は定期考査の成績、提出物（プリント、ノート、ファイル、実習の記録、課題）、授業態度などをみて総合的に判断します。

１学期	期 末 考 査：６０％、提出物：３０％、態度：１０％
２学期	期 末 考 査：６０％、提出物：３０％、態度：１０％
３学期	学年末考査：なし、提出物：９０％、態度：１０％
学年末	（１学期の評定＋２学期の評定＋３学期の評定）／３

６　評価の観点（評価の観点及び評価方法）

	ａ．関心・意欲・態度	ｂ．思考・判断・表現	ｃ．技能	ｄ．知識・理解
評価の観点	･食生活､暮らしと経済、高齢者の生活と福祉などについて関心をもち、その充実向上をめざして主体的に取り組むことができるとともに、実践的な態度を身に付けようとする。	・食生活、暮らしと経済、高齢者の生活と福祉などについて生活の充実向上を図るための課題を見いだし、その解決を目指して思考を深めることができる。 ･課題解決に向けて適切に判断し、自分なりに工夫しまとめることができる。	・食生活の科学と文化、高齢者の生活と福祉などに関する技術を総合的に身に付ける。	･食生活､暮らしと経済、高齢者の生活と福祉などに関する知識を総合的に身に付けることができる。
評価方法	・授業、実習への参加の仕方や態度 ・課題 ・ワークシート	・定期考査の論述問題 ･実習レポートやプリントの考察 ・発表の内容	・実習の実技 ・実習レポート ・課題	・定期考査 ・実習記録の考察

7　年間計画

月	学習内容	指導目標・指導上の留意点 評価の観点	時数	進度	評価方法 【使用機器等】
4	オリエンテーション ２章　次世代をはぐくむ 第１節　子どもの発達と生活 ①命をはぐくむ ②胎児は母体とともに ２章　次世代をはぐくむ １節　子どもの発達 ③子どもの体の発育・発達 ④子どもの心の発達 ⑤子どもと遊び ⑥子どもとのふれ合い ２節　親の役割 ①親と子の関係	・学習の意義や進度、評価の方法を理解させる ・次世代の子どもたちをすこやかに育てることの責任を自覚する。 ・妊娠前から男女ともに心身の健康管理につとめることの重要性を学ぶ。 ・妊娠から子どもの誕生までの母体の健康管理，胎児の発育と母体の変化を学ぶ。 ・胎児の環境としての母体について理解し，母体の健康管理の重要性と生命の尊さへの認識を深める。 ・乳幼児期は一生を通じての人間の発達の基礎をつくる最も重要な時期であることを理解する。 ・子どもの発育・発達には個人差があるが，一定の順序と共通性があることを認識する。 ・新生児，乳児，幼児それぞれの時期の特徴について理解する。 ・からだの発達同様，情緒や言語の発達についても個人差が大きいことを知る。 ・心の発達とともにさまざまな欲求があらわれること，子どもが欲求不満におちいった場合には親の適切な対応が重要であることに気づく。 ・遊びは子どもの生活の大部分をしめており，遊びをとおして子どもの心身の発達や健康の保持・増進がなされていることを理解する。 ・乳幼児の発達の面から遊びの意義や児童文化財について考える。 ・自分の幼児期について振り返り、保育者や幼稚園での実体験をもとに幼児期が、心体の発達の面で大切な次期であることを理解する。 ・乳幼児期は、人間形成の基礎となる重要な時期であり、特に親とのかかわりによる「愛着」の形成は、その後の信頼関係づくりのうえで重要であることを理解する。 ・保育の第一義的な責任は親にあることを認識するとともに、子どもの人間形成にかかわる親の役割について理解する。 ・沐浴実習を通して、新生児の扱い方、沐浴をさせる意味などを理解する。	1 1 1		・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート ・期末テスト 【パワーポイント】 【折り紙】 【折り紙教本】 【伝統的な遊具】 【視聴覚教材】 【絵本・紙芝居】 ・授業態度 ・発問評価 ・【胎児模型】 【妊婦疑似体験キット】 【沐浴実習】
5	②乳幼児期の生活 幼児の手作りおやつ 　調理実習「マドレーヌ」	・暮らしのなかでの基本的な生活習慣の形成，社会性の習得について理解する。 ・乳幼児の食生活・衣生活・住生活について理解を深める。 ・家庭で起こりうる事故について知り，未然防止の大切さについて考えを深める。 ・乳幼児の健康の保持増進をはかるための健康診断，育児相談，予防接種などの概要を把握し，その重要性について理解を深める。 ・家庭にある材料で、簡単に手作りできるおやつを作る。 「小麦粉、卵、バター」 ※小麦粉と卵はアレルゲン特定原材料なので、アレルギーの有無や代替食品での対応も学習する。	1 2		・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート ・期末テスト 【パワーポイント】 【視聴覚教材】 ・実習の記録

6	３節　子育て支援と福祉 ①子育て支援と地域社会のかかわり ②子どもの権利と福祉 ６章　食べる １節　人の一生と食事 ①私たちと食事 ②食べることと健康 ③食生活の変化	・少子社会のもとでの子育て支援について考え、よりよい保育環境を保障するために、地域や社会が果たす役割について考える。 ・家庭保育との比較のなかで、集団保育の意義や、現代社会における保育のあり方、特徴を理解する。 ・子どもの権利条約にもとづいて、子どもの権利や福祉についての理解をはかる。 ・国際社会に生きるものとして、男女差別や人種差別のない社会をめざし、ともに生きることの大切さを考える。 ・日常の食生活を振り返り、健康や生活習慣に直結する食事について学ぶ意欲を高める。 ・食物の役割を認識し、食が心身を育むうえでも大切なものであることを理解する。 ・人間の体の生理的周期を知り、なぜ朝食をきちんととる必要があるかを考える。 ・現在の食生活の実情を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解する。 ・栄養摂取のアンバランスや不規則な食生活によって、生活習慣病や心身の不調がもたらされることを知る。 ・ＰＦＣ比率に注目し、日本は脂質のとりすぎの傾向にあることを理解する。 ・家族や仲間と一緒に食べることのメリットを理解し、食事を大切にすることができる。 ・食生活にかかわる情報を適切に適切に判断することができる。	1 1 1		・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート ・期末テスト 【パワーポイント】 【視聴覚教材】
7	④食生活の文化 ２節　栄養と食品 ①人体と栄養 ②栄養素の種類と性質 （炭水化物） （脂質） （たんぱく質）	・日本の風土から生まれた日本食の基本「一汁三菜」を理解し、日本の食文化を知る。 ・昔から伝えられてきた和風から多くの変遷を経て、現在の食文化が創り上げられていることを理解する。 ・健康な生活を送るうえで、必要な栄養素とそのおもな働きについて理解する。 ・食品中の成分をどのように分解し、人体の成分として利用しているか、その過程を学ぶ。 ・ｴﾈﾙｷﾞｰ源としての糖質、腸内環境を保つ食物繊維について学ぶ ・食物繊維を含む食品の重要性について学び、必要量の摂取について考える。 ・ｴﾈﾙｷﾞｰ源、また体構成物質として働く脂質の役割について学ぶ。 ・脂肪酸の種類とそれを多く含む食品を知り、健康的な摂取を質と量の両面から学ぶ。 ・からだの組織をつくるたんぱく質とそれを多く含む食品について学び、他の食品との組み合わせによるたんぱく質の補足効果を理解し、アミノ酸価についても学習する。	1 1 1		
9	（無機質・ビタミン） ③加工食品と健康増進のための食品 ３節　食生活の安全のために ①食生活の安全と衛生 ②食品の選択と保存 食品実験「着色料の検出」	・無機質・ﾋﾞﾀﾐﾝの種類と働き、それらを多く含む食品について学ぶ。特に、ｶﾙｼｳﾑと骨形成、鉄と貧血の関係等を理解する。 ・調理加工品や調味料･香辛料などの種類と働きについて基本を理解する。 ・健康贈品のための食品について基本的な理解をはかるとともに、サプリメントの効果や扱い方についても考える。 ・食中毒にはどのような種類があるのかを知り、細菌汚染を防ぐため、食品の取り扱い、手の清潔、台所や調理器具の衛生などの面での注意事項について学ぶ ・食品添加物の用途を理解するとともに、食品に含まれている食品添加物の名称・使用目的などを調べ、購入に際しての選択法を見につける。 ・各食品の保存法について取り上げ、理解する。 ・消費期限・賞味期限をもとに食品を正しく選ぶ力を養う。 ・食品表示、栄養表示をとおして内容を読みとり、身体状況に応じた食品を選択できるようにする。 ・加工食品には着色料が使用されているものがあることを知り、それが天然色素なのか合成色素なのかを調べ、それぞれの特徴を確認し、食品の着色料について考える。	1 1 1		・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート ・期末テスト 【パワーポイント】 【視聴覚教材】 ・実験の記録

10.	４節　食生活をデザインする ①栄養バランスのよい食事 ②ライフステージを食事 ③献立作成の手順 ５節　これからの食生活 ①食生活をとりまく環境の変化	・健康の保持・増進、からだの成長のために必要な食事摂取基準について理解する。 ・身体活動レベルについて理解し、そのときの自分がどの身体活動レベルにあたるかを確認する。 ・自分及び家族の食事摂取基準について調べ、家族の栄養素量の平均がいくらになるか求める。 ・ライフステージごとに必要な栄養素や嗜好の違いを理解する。 ・食事摂取基準を満たすためには、どの食品をどれだけ食べればよいかというめやすを示した「食品群」について学習する。 ・「食品群別摂取量のめやす」を活用できるようにする。 ・ライフステージに合わせた食事計画を立て、１日３食のバランスがとれた形でつくれるようにする。 ・栄養･嗜好･加治賄･予算･調理時間などを考えて合理的に献立が作成できるようにする。 ・日本の食料自給率の低下や輸入依存の実情を知り、その原因を探るとともに、食料の安定供給について考える。 ・無駄のない食材の使用や、環境に負荷をかけない食生活上の工夫を考える。	1 1 1		・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート ・期末テスト 【パワーポイント】 【視聴覚教材】
11.					
	③将来の経済生活を考える ２節　消費者問題を考える ①消費者問題はなぜ起こるのか ②契約トラブルとその対策 ③クレジット利用のリスク	・個人や家族の生活目標を実現するには、経済計画が必要であることを理解する。 ・家庭のリスクへの対策も考慮すると、短期・長期の両面から経済計画が必要であることを理解する。 ・大量生産・大量消費の時代に商品の購入と消費をめぐって消費者側が不利益や被害を受けたことを契機に消費者問題が生じたことを理解する。 ・消費者として適切な意思決定のもとに権利を行使し、責任ある消費行動をとっていこうという態度を養う。 ・有用な生活情報を取捨選択して収集・活用していくことが重要であることを理解する。 ・財・サービスの購入はすべて契約であることを知り、契約の重要性を理解する。 ・消費者被害の事例をとおして、消費者被害の状況を理解し、消費者被害が起こる原因を考える。 ・契約後でも、考え直てし解約する方法があることを理解する。 ・契約に対する責任を自覚し、問題商法にあわないための注意、予防法を考える。 ・販売方法、支払い方法が多様であることを知り、購入時に適切な判断が必要であることを理解する。 ・消費者信用について理解し、利用に際しては、慎重におこなう意識と対応策を身に付ける。	1 1 1		

12.	④消費者の自立と行政の支援 ３章　充実した生涯へ １節　高齢期を生きる ①高齢期をどう生きるか ②高齢者の生きがいと就労・社会参加 ③高齢者を知る	・消費者関連のさまざまな法律が制定され、国や各都道府県の機関が設置されていることを理解する。 ・消費者は、生産者や行政に自分達の意向を伝え、その実現に向けての義務と責任があることを理解する。 ・さまざまな消費者問題の発生のなかで、消費者の権利が制定されたが、消費者の責任についても提唱された。消費者の権利の保障とともに、消費者一人ひとりに責任があることも理解する。 ・高齢社会を迎え、私たちにとって高齢者の存在がかかわりの深いものになってきたこと、豊かな生活経験をもつ高齢者から学ぶことが多いことなどについて理解する。 ・高齢者の健康意識について知る。 ・元気に活躍する高齢者について具体的な事例を取り上げ、エイジフリー社会について考える。 ・社会参加の例として、地域活動や生きがい事業について考える。 ・高齢者の優れた知力について理解する。 ・加齢にともなう身体機能の変化について理解し、身体的自立を援助することについて考える。	1 1 1		・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート 【パワーポイント】 【視聴覚教材】
1	【体験実習】 高齢者疑似体験 ２節 ①高齢社会の現状と課題 ②高齢者やその家族への支援システム ③高齢者の尊厳を支える ４章　ともに生きる ①社会保障制度と福祉	・高齢者体験を通して高齢者の身体状況への理解を深め、「相手の立場や気持ちを思いやることは、自分を大切にすること」であることについて理解する。 ・日本の高齢化の現状について理解するとともに、将来の高齢社会のあり方を考えていく。 ・高齢者世帯の生活状況を把握し、心身両面からの支援が必要なことを知る。 ・高齢者世帯の生活費について知り、公的年金制度や経済的な支援について考える ・介護保険制度のねらいや運用方法について理解し、今後の課題についても考える。 ・地域の介護サービスの状況について調べ、家族や地域の一員として高齢者がその人らしい生活を送れるよう、実践的態度を養う。 ・高齢者の自立を支援するうえでコミュニティーの大切さを認識し、その基本的方法について理解する。 ・社会保障制度の必要性とそのしくみについて認識し、それぞれの範囲について理解する。 ・安全で快適な生活を送るためには、各自の自助努力のみではなく国による法的な整備や地方自治体による行政措置が必要であることを理解する。	1 1 1		・実習体験レポート 【シニア体験ｾｯﾄ】 ・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート 【パワーポイント】 【視聴覚教材】
2	②ともに生き社会をめざして	・ノーマライゼーションの実現のためには、私たち自身がどう考え取り組んでいけばよいかという実践的な態度を身につける。 ・ボランティア活動についても取り上げ、民間の力の必要性と役割について理解を深める。	1		・授業態度 ・発問評価 ・ワークシート ・ノート
		年間指導時間	30		